

# 礼らい拝はい

令和4年10月24日  
6号



## 時間を大切にしよう 億劫(おっくう)と億劫(おくこう)

二学期の中間テストを終え、本日は午後から文化祭映像部門の鑑賞が行われます。中間考査に向けての準備期間、時間はうまく使えたでしょうか。今月の月間目標の小テーマにある「時間を大切にしよう」の通り、限られた時間の中で、一分一秒を大切に使うことは、自分の人生を左右する大切な要素であると思います。さて、みなさんは「億劫(おっくう)」という言葉を知ったことがあるでしょうか。この頃は耳にする機会がほとんどありませんし、私自身も自ら会話の中で使ったことも余り記憶に残っていません。ただ、子どもの頃に先生から「おっくうがらずにきちんとやりなさい」というフレーズを、

何度か聞いたことがあります。また、本を読んでいると出てくることもあり、その中で、耳なじみの言葉ではありませんが、意味や使い方は概ね次のようなことになります。例えば、疲れていて何をすることも面倒くさかったり、自分のペースが乱されそうなので気乗りがしないときなどに「そんなことするのはおっくうだ」とか「考えるのもおっくうだ」のような使い方をします。気乗りがしない、面倒くさい、動きたくないときに用いられる言葉で、あまり前向きなイメージのない言葉として定着しています。

億劫(おっくう)はもともと「おくこう」と読み、それが「おっくう」そして「おっくう」と変化していきました。億劫は仏教用語として使われる言葉で、非常に長い時間のことを意味します。古いインドの言葉で「カルパ」という時間の考え方があり、仏教では最も長い時間を表す単位として用いられます。カルパが「劫波」と漢字表記され、次第に省略されて「劫」と表されるようになりました。つまり億劫とは、「劫」を一億倍するほど長い時間ということになります。では一劫はどれほどの長さなのでしょう。諸説ありますが、その一つとして多くの経典などに、「磐石劫(ばんじやくこう)」の例えで説かれています。「一辺が四十里(約一六〇キロメートル)の立方体の

大きな岩に、百年に一度、天女が舞い降りてきて、その羽衣でそつと岩の表面をなでる。そうしているうちに岩が少しずつ削られて、すべて無くなるまでの時間を一劫という。」気が遠くなるような時間ですが具体的な数値として、四十三億二千万年として数えられるそうです。さらに時間の長さを強調し、永久に終わらない時間を表現して「未来永劫」と使われるようになりました。つまり、億劫(おくこう)が果てしない時間を表すところから、「時間が長くかかるから気乗りがしない」とか「時間がかかりそうだから面倒くさい」といった意味で使われるようになったのです。

仏教では億劫もの長い間にも聞くことすら難しい正しい教えを得る好機は、人間として生を受けた今しかないと言われます。聖歌集にある「開経偈」にも、人間として正しい教えに会えたことの喜びや、この機会を逃さずに学びを深めようという内容が記されています。億劫から見れば人間の一生はほんの一瞬の間です。面倒だなあ、億劫(おっくう)だなあと思った時には、ぜひ億劫(おくこう)の意味を思い出し、今しかないチャンスをお絶対逃さない気持ちで、真理探究、精進努力をしていきましょう。